

小学校 第2学年
A表現（1）イ B鑑賞（1）ア

題材名
音づくりフレンズ



実践校
大垣市立小野小学校
授業者 青木 佳代子
実践時期 3学期
全7時間

つながりを生かす

〇ひと

「ひと」とのつながりを大切にし、自分たちで作った作品と一緒に音を鳴らしたり、仲間の作品の良さを自分の作品に取り入れたりし、自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。

〇もの

「もの」とのつながりについては、自分の身の回りにある物に目を向け、どんな音が出るのかどんな物が作れそうか、と積極的に身の回りのものに関わる態度を育てるようにする。

〇ちから

「ちから」とのつながりについては、身の回りにある廃材を利用して作品を作る活動を通して、思いのままに発想や構想を繰り返す、技能を働かせながらつくり出すことができるようにする。

題材の流れ

第1時 構想を練る

どんな楽器を作るのか、材料はどんなものが必要なのかを考える。

ギターが作りたいから、大きい箱が必要だ。振って音を出したいから、中に何を入れたらいいかな。

第2時 作品作り

どんな音が出せるのか、試しながら作品を作る。

たたいたらこんな音が鳴るんだ。色のついたストローも切って中に入れたらカラフルになってかわいくなりそう。

第3時 中間鑑賞

仲間の作品を見て、良いところを見付け自分の作品に取り入れたいことを見付ける。

〇〇さんの、楽器がカラフルでかわいいから自分も、カラフルにしたい。〇〇さんが毛糸で飾りを付けていてすてきだから、まねしたいな。

第4時 作品作り

いろいろな音の出し方を試し、音のイメージに合う飾りをつける。

ポイント1

たたく、振る、弾く、こするなどの音を鳴らし、何で音を出しているのかイメージを膨らませる。

第5・6時 作品作り

いろいろな音の出し方を試し、音のイメージに合う飾りをつける。

ポイント2

小さく硬いものを切るときに切ったものが飛んだり、指を切ったりしてしまわないように、声をかける。

第7時 鑑賞

音を鳴らして自分たちの作品の面白さや楽しさ、表したいことなどについて感じとったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

ポイント3

音の鳴るものをつくるだけでなく、その音に合った飾りを付けることで作ったものがより楽しくなることに気づき、仲間と一緒に音を出すことによって楽しさを共有する。

作品例



授業を終えて

中間鑑賞の時間を入れることで、自分の作品に取り入れたいことや、自分が作りたい物がわかりやすくなり、人との関わりも意識することができた。